

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	日高川町立丹生中学校	松本 典之
学校所在地		
(〒 649 - 1442) 和歌山県日高郡日高川町江川536 tel 0738 (53) 0013 fax 0738 (53) 0267		
担当者名		役職名・担当教科
浅井 淳平		教頭
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は全校生徒 68 名の小規模校である。校区は、旧川辺町の中央部を流れる日高川の東南部に位置し、古くは丹生村と呼ばれていた全地域である。松瀬・和佐・江川・山野の 4 つの大字から成り立っており、生徒は和佐・江川・山野の 3 小学校から進学してくる。校区には山林・農地が多く、かつては専業で農業や林業に従事する家庭が多かった。今では専業農家は少なく、共働きのサラリーマンや公務員が多くを占める。蛍の飛び交う豊かな自然が広がり、丹生神社の「笑い祭り」や戦国の武将玉置氏の「手取城跡」、丹（水銀）の採掘跡である「権次穴」をはじめ、「鴨尽池」や偉人「瀬見善水」など、歴史的・伝承的な文化が数多く残されており、地域学習の教材は多い。また地域には、旧丹生村時代に森武楠翁が村に寄贈した山林財産を管理する興仁会があり、本校は備品や施設に多額の寄付を受けてきており、体育館に併設された公民館を学校の施設として使用することも許されている。本校が管理する、著名な彫刻家「保田龍門」作の森翁の胸像と油彩画は道徳や美術などの教育財産にもなっている。</p> <p>校区には、全天候型のテニスコートを有するかわべテニス公園や南山スポーツ公園陸上競技場などスポーツ施設が充実している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
全学年 68名	8名 職員 11名	教室 高野山 壇上伽藍 金剛峯寺 奥の院
実践研究テーマ		
郷土を愛し、地域に信頼され地域に貢献できる生徒の育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	『ふるさと学習』	
<p>〔キーワード〕 横断的・総合的な学習 探求的な学習 自ら学び、自ら考え、主体的に判断主体的、創造的、協力的に取り組む態度 自己の生き方を考える</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <p>地域の自然や歴史、人々、社会、自分たちの生活の中から自分の課題を見つける。さまざまな方法で資料や情報を集め、課題を追求する。調べた内容やわかったこと、考えたことを工夫して発表することで、地域への興味関心を高め、主体的に課題を解決し、適切に表現しようとする態度を身につける。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 55 時間 （「「紀伊山地の霊場と参詣道」について知ろう」 10 時間 ）【3年生】</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界遺産センター職員による紀伊山地の霊場と参詣道についての事前講座の実施。 世界遺産マスターや世界遺産センター職員の方々による現地学習。 		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕 3年生			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1 45	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行に向けて・振り返り ・地域の課題についての検討 ・課題解決へ向けてのインタビュー活動 ・収集した情報の整理 ・課題解決への提案発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県と修学旅行先の違いを調べる。 ・日高川町の課題について考え、解決方法を見出す。インタビュー活動を行い、地域の人から情報を収集し、解決方法を具体化する。 ・収集した情報を整理しまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシート ・発表物 ・発表態度
46	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産事前学習〔本校〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・『紀伊山地の霊場と参詣道』について、熊野古道のルートや熊野三山、八咫鳥の神話、高野山について事前学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
47	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産講座（事前講座）〔本校〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産センター職員から『世界遺産』についての講座を受け、世界遺産について知る。 ・『紀伊山地の霊場と参詣道』について興味を持ち、現地学習への意欲を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシート
48 54	<ul style="list-style-type: none"> ・現地学習（壇上伽藍から金剛峯寺を経て奥の院） 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産マスターや世界遺産センター職員の方々にガイドをしていただきながら約3kmの現地学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ワークシート
55	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り〔本校〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地学習について振り返りを行い、壁新聞の形でまとめる。 ・高野山での学習を振り返り、世界遺産や熊野古道・熊野三山について興味を持たせるとともに、後世に受け継いでいく態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁新聞
<p>〔单元学習の成果と課題〕</p> <p>【成果】 日高川町に住んでいながら和歌山県のことや日高川町についての知識が少ない生徒も多かったが、本学習を行うことで『ふるさと』について興味を持つ生徒が増えた。本事業における事前講座や現地学習を行うことで、高野山や町石道、世界遺産についての知識を身につけることができた。また、世界遺産を後世に残していかななくてはならないという考えを持つことができた。</p> <p>『わかやまふるさと検定』を行うにあたり、和歌山の文化財等を主体的に学ぶきっかけとなった。</p> <p>【課題】 本单元での課題解決学習で学んだことを各学年でまとめることはできたが、全校発表の場を持つ事ができず、校内音楽会の会場で、高野山での学習をまとめた壁新聞を掲示しただけとなった。全校や地域への発表の機会（時間）を持つとともに、世界遺産学習を含めた和歌山県についての学習の実施時期を1学期や2学期の早い時期に計画的に行い、ふるさと学習に繋げていく必要がある。</p>			
<p>〔世界遺産学習の効果〕</p> <p>世界遺産については社会科や英語科の授業で取り扱っているが、実際に生徒自らの足で高野山を歩くことで、世界遺産を身近のものとして認識することができた。また、和歌山にある世界遺産について興味を持ち、『また行ってみたい』『歩いてみたい』という思いを持つことができた。今まで知らなかった和歌山の魅力について知ることができ、自然や歴史的な文化財を守り、後世に伝えようとする思いを持つきっかけになった。また、和歌山県の文化財について興味を持ち、文化財の良さや歴史を知ろうとする思いを持つことができた。</p>			
<p>〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕</p> <p>身近な地域に熊野古道（紀伊路）が通っているので、そこに焦点を当て、世界遺産である熊野古道や熊野三山、高野山の学習につなげていくことができると考える。世界遺産の保全などに携わる人からお話を聞いたり、和歌山の文化財について調べ学習を行い、まとめることで和歌山県や身近な地域の世界遺産・文化財に興味を持たせ、保全や後世に伝えていこうとする態度を養っていききたい。</p> <p>また、世界遺産について社会科等と教科横断的な学習を展開し、知識を習得するとともに、自ら課題を設定し解決法を考えていく学習を計画的に実施していきたい。</p>			

様式 2

令和5年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

【次世代育成事業 事前講座】

世界遺産センター職員から全校生徒に対して事前講座をしていただき、世界遺産について学習した。



【高野山現地学習】

全校生徒を4班 (縦割り班) に分け、それぞれに世界遺産マスター・世界遺産センター職員についていただき現地学習を行った。



【校外学習まとめ】

現地学習後、各学年5名程度を1つの班として班分けし、壇上伽藍・奥の院に分けまとめを行った。

